

竹下復興大臣ぶら下がり会見録

(平成27年9月19日(土)14:12～14:22 於) 福島県檜葉町)

1. 発言要旨

どうも御苦労さまでございます。本日は檜葉町を中心に視察をさせていただきまして、いろんなところを見せていただきました。浄水場あるいはこのモックアップ施設もそうでありますし、Jヴィレッジもそうであります。また、午前中には『「いくならならは。」リニューアル記念セレモニー』という町を元気づけるための施設をリニューアルオープンするセレモニーにも出席をさせていただきました。その途中で、町民の皆さん方と30分ばかりですか、様々な意見交換もさせていただきました。檜葉町は避難指示が解除になりました、帰還が始まりつつありますけれども、「ああ、檜葉に帰ってきて良かったな」という檜葉にしなきゃいかんと。今日のリニューアルオープンも一つのきっかけにして、「帰れる」と、「帰ったら楽しいぞ」という、そういう檜葉をお年寄りのためにも子どもたちのためにも作っていかなくちゃいかんという強い声を伺いまして、私自身も改めてそういうふるさとを取り戻してもらうために、また一層頑張らなくちゃいかんなど痛感をいたしました。

また、Jヴィレッジでもあと2年から3年をかけて返していただいて、新たにサッカー場として使えるような状況を作り上げていくということをお伺いすると同時に、全国の子どもたちのサッカーの聖地にしたいと。全国少年サッカー大会をここで開いて子どもたちのサッカーの聖地に、子どもたちの「甲子園」にならないかなというようなお話も伺いまして、そうなればいいなど、かつてそうであったように少年サッカー大会がこのJヴィレッジで開かれるということ。そして、それより前に我々がやらなくちゃならんことはオリンピックに向けまして、まさに日本国のチームのトレーニングセンターとしての活用、あるいは全国のサッカー少年たち、プレーヤーたちが集ってくれるような、そういうものを取り返さなくちゃいかんと。今は工場の資材の置場になったり、駐車場になったりしておりますが、それを取り返していくと。取り返すからにはいい形で取り返していきたいし、しっかりとやり抜いていかなくちゃならんというお話も伺いました。我々としてもできるお手伝いは最大限しようということ、これも改めて決意をいたしましたような次第でございます。

また、このモックアップ施設は、御覧のように巨大なものでありますし、世界に類を見ない屋内での実験というよりも原子炉を再現して、そこで様々なトレーニングも含めていろいろやっていくという施設であります。世界最先端の施設でありますし、これを生かして廃炉に向けての作業というのを1歩でも2歩でも3歩でも着実に歩んでいかなければならないと。そして、ここで様々なロボット技術などが培われますので、それは廃炉に向けての技術だけではなくて、様々な応用の効くものであると。あるいは広がりのあるものであると思いますので、世界にこの技術で打って出れると、そういう一つ

の拠点になってくれればなという期待を込めているいろんなお話を聞かせていただいたところでございます。

私からは以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 改めてなんですけれども、今日は住民の方と実際に懇談をされているような要望も伺ったと思うんですけれども、一方でまだ7,000人ぐらいの町民の方々が町外で生活していらっしゃるという事実もあるので、なのでこれからより帰還できるような環境を整備していくために、改めてどういうところに、どういう心構えで大臣は今後取り組んでいかれるのか、その決意のほどを。

(答) 皆さん方にもお話をしましたのは、これは帰還へ向けての第一歩で、これで終わりじゃないんだと、スタートなんだと。ですから、まずは帰っていただける環境を作ったと。これからそれをよりいい環境に、例えばまだ人数が少ないですけれども小中学校が開ける準備というのはもう既に始まっておりますし、あるいは商店街、更に充実をする。あるいは地元の商店街が出ていただくという準備も今、既に行っております。

また、医療施設がなければお年寄りの方は不安でございますが、これも県立の診療所というものを着工いたしました。そうしたよりいい、帰りやすい環境を一つ一つ積み重ねていく、そのことが帰還に向けての弾みになってくれればなと。必ずや弾みになってくれると思いますし、今日も松本町長とずっと話しておりまして、そして朝のリニューアルオープンの時の周りの人たちの笑顔を見ておりまして、まさにスタートしたなと。「止まっていた時計が動き始めた」という表現を松本町長はしておられましたけど、私もそういう、いよいよスタートだと。これから動くということを改めて強く感じたところであります。

(問) 続けてなんですけれども、実際に檜葉町が避難指示が解除されたというのは、これまで他に2例ありますけれども、これだけの規模で解除されたというのは初めてであると思うんですが、今後、解除していくに当たってなんですけれども、ここでの取組が一つマイルストーンというか参考になっていくようなものになっていくと思うんですが、そういった意味での今後の檜葉町への取組の期待というものは。

(答) 2つの意味があると思います。将来に向けてのマイルストーンであり、全町避難の檜葉が指定の解除になるということによって順調に帰還が進むという状況を作ること、これからの解除が続く市町村にとって物すごく大きな参考になると思います。

しかし一方で、檜葉の問題は檜葉の問題なんです。これは他のモデルじゃなくて、まず檜葉の問題としてしっかり対応すると。檜葉の皆さん方にしっかりと、「良かったね、帰って良かったな」という状況になってもらうという。もちろん今後に向かってのマイルストーンではありますけれども、我々はもう一方で、これは檜葉の問題だという側面も決して忘れちゃいかんなど、

こう思っております。

(問) 町民の方から今日具体的に、親としては放射線量の心配があるですとか、それから屋内型の施設を作ってほしいという要望等がありましたが、そのような声に対してどういう答えをされたのか。

(答) あの方も子ども2人持っていていらっしゃるしまして、安心だと言われるけれどもなかなか安心と安全だと言われることと、心の底から安心するかどうかという、特に子ども

を持っている皆さんについてはその乖離というのはなかなか超えづらいなということ、いろんな表現でしていらっしゃいました。そうだろうと思います。なかなか室内の全天候型の施設を作るというのはそう簡単な話ではありませんが、帰ってくる皆さん方の希望が本当に強ければ、それも検討しなきゃならん一つでありましょうし、できれば線量が相当下がってきていますから、線量が下がってきている中ですので、子どもたちが思い切って外で遊ぶと。その楽しく遊ぶ姿を訴えることとか、強烈に印象づけることでまた帰ってくるという、いい循環を生み出すことができれば一番いいなど。不安は不安として否定するものでも何でもありませんが、いつまでも不安だから、安全だけど不安だからということ、いつまでも続けていたら、いわゆる町全体の復活はないと。私はそこは必ず乗り越えなきゃならない壁があると、こう思っております。

(問) 追加の除染とかそういうのを考えていることはないですか。

(答) 除染して下がるなら、してもいいですよ。下がりにませんから。ほとんど下がりにません。1回やったところ、それは下がる局面もありますけれども、それほど効果がありませんので。

(問) 既にもう下がってきているから。

(答) もう相当下がっています。もう皆さん方、御承知のとおり、はるかなレベルに下がってきていることは事実ですから。

(以 上)